

家庭にメッセージを ～学校から見える子どもの問題～

虐待を受けた乳幼児は、脳の構造が変化して、心のダメージになることの研究が進んでいます。子どもの欲求を、その子のペースに合わせてかまってもらわないと、次の3つに影響があるようです。

- ① 自己肯定感 ② 社会性・協調性 ③ 感情制御

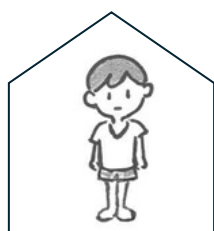
ところで、この3つは、学校訪問でよく話題になる課題です。極めてひどい虐待は多くないと思いますが、同じような心の課題がある子どもが増えていることを多くの学校で実感されているようです。

東京大学大学院の遠藤利彦教授は、子どもが一人で自律的に活動できるようになるのは、前提として、「不安な時にくっつける大人がいる」との安心感があるからだとして述べておられます。

自分を高めようと努力をする、人との関わりを大事にする、衝動的にならずに生活する — そんな子どもたちを育てるために、安心の土台づくりを、家庭に呼びかけていきませんか。

近年の学校で増えている問題 — 心の土台が弱い子どもたち —

「外弁慶」の
子どもが
増えてきた



家庭で 要求に応える
緊張・評価・疲労

外弁慶

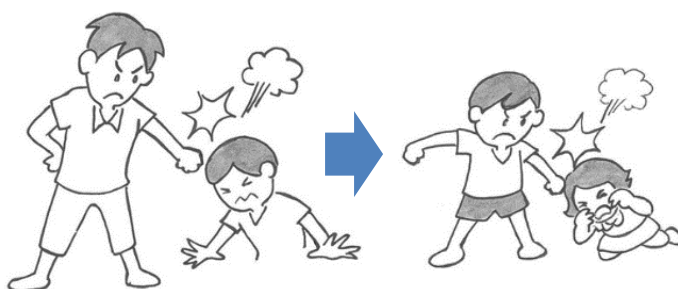


学校では 甘える
わがまま・逃げる・ゆるむ

【外弁慶】

家にいる時は大人しく、
家族に抵抗したり文句を
言ったりしないが、外に
出ると威勢がよくなり威
張ること。
「内弁慶」はその逆。

親の暴力は
子どもに
感染する



しつこく理由にしても、
大人が暴力をふるうと、
下の者に一方的に暴力を
ふるってもよいのだと、
子どもは学びます。

できない
ことは、
やろうと
しない

負けじゃない！
ズルをしても勝つ

相手をバカにして
自分が上になる

弱いヤツとしか遊ばない

ボクだけを見て
ボクだけをかまって

失敗しそうなら
最初からやらない

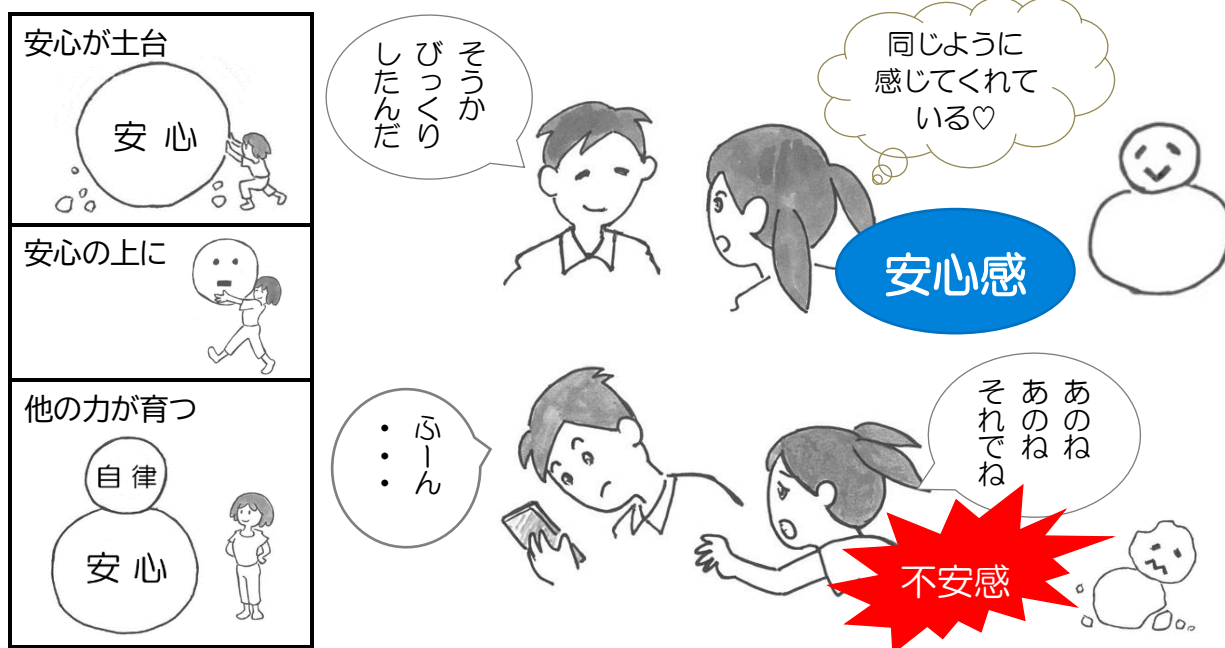
悪くても
謝らない

ボクはやっていない(ウソ)

周りの子どもたちと
同じ活動ができずに、
立ち歩きや教室から
出るようになります。

家庭へのメッセージ ― 学校と一緒に安心の土台を育てましょう ―

①表情と言葉を向けることが、安心感を育てます



②くり返し教えて、待ってやることが自律する力を育てます



③「良い子の親＝良い親」から、もう卒業しませんか？



子育てを、保護者だけが抱え込みやすい社会になっています。

保護者が追い込まれないように、学校が相談相手に。そして相談先の紹介も。

今回は、アタッチメントへの感情支援をテーマにしています。ADHD に行動の支援が、ASD に認知の支援が必要のように、子どもの背景によって支援方法は異なります。個々の問題行動や課題への対応を考える際には、専門家を入れて、そのケースごとにアセスメントをすることが大事です。